

たなるよし、有某説、

越前牛

角もとふとくさきほそく耳すこしおほきなりはなのかはながくつよし、うへすぐにはたりて
したくつろぎ、骨ふとく穴あつく、しかもかたし、腕すこしをして、蹄うすくしてさきほそなり、あ
たらしき時は、みじかくしてうすらかに見ゆるものなり、大なる牛逸物おほし。

越後牛

あたませばくて、額のかみなし、つのながくおほきに、耳おほきに肩うすく、腹おほきに骨太く、安
うすく、牛大に力あり、逸物まれにあり、十牛のすがた大概はしにしるしをはりぬ、このほか出雲、
石見、伊賀、伊勢などよりも、事よろしき物いできたるよし、つたえき、はべれども、そのさまいま
だ見さだめず、抑おなじたちのうち、角のかづき身のつゝきよりはじめて、驥駿おなじからざる
さましなぐくにして、いひつくしるを、このたつおもてに目をとゞめて難をくはふる人ある
べし、是柱ににかはするたとへ、をろかなるをしはかりなるべし、たゞしるとしらざると、もちひ
るもちひざるとなり、時に延慶三年庚戌五月十日あまり、雨の中のひまにしるしをはりぬ、

河東牧童寢直麿記之

〔日本書紀十八年〕二年九月丙辰、別勅大連云、宜放牛於難波大隅島與媛島松原冀垂名於後、
〔續日本紀三十八〕桓武延暦三年十月庚午、勅備前國兒島郡小豆島所放官牛、有損民產、宜遷長島、其小豆
島者住民耕作之、

〔日本紀略一條〕正暦二年五月八日丙午、攝政○道隆原召阿波國牛五頭、給大外記中原致時并六位外
記三人、

〔古今著聞集九武勇〕鬼同丸○中くらまのかたへむかひて、市原野の邊にて、びんぎの所をもとむる